

豊かなスポーツライフの実現を目指し、 『自ら』課題を発見し、その解決に向けた学習過程を通して 資質・能力を育む体育・保健体育学習

1 大会研究主題設定の背景

学習指導要領の 趣旨

これからの時代を生きる子どもたちが、明るく豊かで活力ある生活を営むためには、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現することが重要である。これに向けて、学習指導要領では、幼児児童生徒が身に付けることを目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し、内容等の改善が図られた。これらの資質・能力を育むためには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組が必要であり、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることを通して全ての子どもたちの可能性を引き出す令和の日本型学校教育の構築が欠かせないと言える。

北海道の体育研究

北海道では、平成2年、平成14年、平成24年に全国学校体育研究大会を開催し、その時の時代背景や子どもの実態等を踏まえ、学校体育の在り方について研究を深めてきた。

平成2年に開催した第29回大会では、研究主題「21世紀を豊かに、たくましく生きる子どもの育成を目指す学校体育の在り方を求めて」のもと、学校体育の在り方を発信した。子ども自らが自分の能力に応じた課題をもち、その課題に向かって自発的・自主的に考え、工夫し、達成することができるように、子どもの視点を大切にしたい学習指導の改善を図ることができた。

平成14年に開催した第41回大会においては、研究主題「はずむ心と身体、共に高め合う体育活動」のもと、一人一人が適切な課題をもち自ら解決していく過程を軸とし、仲間と共に支え合い高め合う喜びを実感できる学習指導の在り方について主張した。基礎・基本となる動きや技能を確実に身に付けることができる教材を工夫することで、仲間との関わりを通して、互いに励まし合ったり教え合ったりしながら子どもができる喜びを実感することができた。

平成24年に開催した第51回大会では、研究主題「未来へつながる健やかな心と体をはぐくむ体育学習の充実～授業から日常へ、授業から未来へ」のもと、心と体をより一体として捉えた指導及び実生活や実社会に生きる指導の充実を提案した。身に付けさせ

たい確かな体育の力を明確にすることで、どの子どもにも確実に獲得させていくことができる指導と評価の在り方について示すことができた。

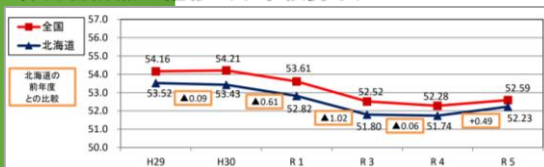
北海道ではこれまで、常に目の前の子どもの姿から研究をスタートさせ、仲間と豊かに関わる場を重視した課題解決的な学習を構築することを大切にしてきた。「自分の課題は何だろう。」「課題を解決するにはどうすればいいかな。」と、子どもが自ら課題を発見し、仲間と共に課題を解決する学習活動を通して、三つの資質・能力を相互に関連させながら高めていくことが今まさに求められている。

北海道の子どもの実態

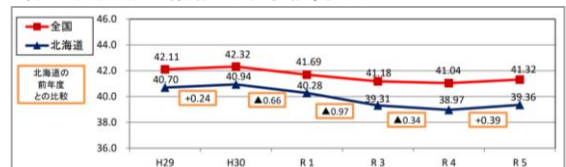
令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において実技に関する北海道の子どもの実態は、小・中学校男女ともに、体力合計点が上昇傾向にあり、全国との差が縮まりつつあるが、依然として全国平均を下回っている。

質問紙調査においては、小中学校男女ともに「運動やスポーツをすることが好き」「体育の授業は楽しい」と回答している児童生徒の割合は、全国平均と同等かそれよりも高い水準を維持している。また、「運動が好き・やや好き」と回答している児童生徒ほど、進学後や中学校卒業後に自主的に運動したいと思う割合が高い傾向が見られるという結果が得られた。スポーツ庁でも同様の分析がなされ、第3期スポーツ基本計画（スポーツ庁、2022）では、学校体育において、運動や体育への愛好的な態度の涵養が重要であるとされている。運動が「好き」「大切」と感じる子どもをさらに増やし、生涯にわたって運動・スポーツに親しむ資質・能力を育むことは私たちの目指すべき方向ともいえる。北海道の子どものよさを伸ばしていくことは、体育科・保健体育科の目標である「心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する」ことにつながると考える。

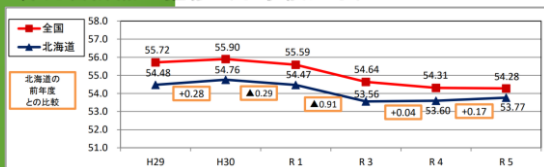
体力合計点の推移（小学校男子）



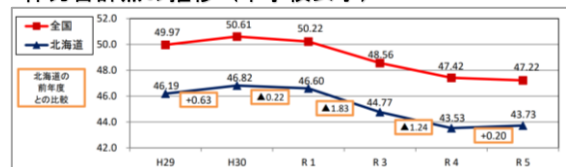
体力合計点の推移（中学校男子）



体力合計点の推移（小学校女子）



体力合計点の推移（中学校女子）



以上、学習指導要領の趣旨や国の動向、これまでの北海道の体育研究の取組、子どもの実態や発達段階を考慮し、大会研究主題「豊かなスポーツライフの実現を目指し、『自ら』課題を発見し、その解決に向けた学習過程を通して資質・能力を育む体育・保健体育学習」を設定した。

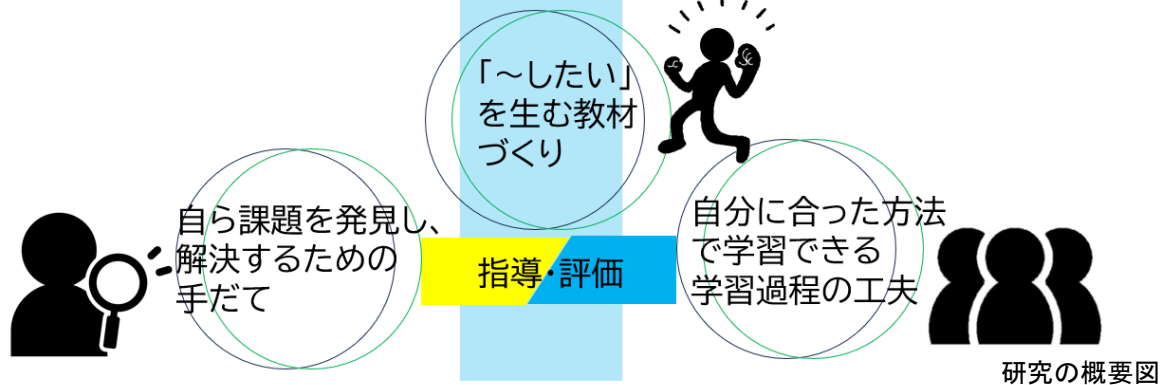
心身の健康の保持増進

豊かなスポーツライフの実現

『自ら』課題を発見し、その解決に向けた学習過程を通して、
資質・能力を育む体育・保健体育学習

「主体的・対話的で深い学び」

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点を踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることで、主題の具現化を目指している。そのために、次の三つの柱で研究に取り組むようにする。

研究の柱①
子どもの「～したい」
を生む教材づくり

全ての子どもが心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現を目指すためには、運動が好きな子どもだけに留まらず、運動が好きではないと感じている子どもの心を動かすことが重要である。共生の視点を踏まえて、どの子どもも運動（遊び）・スポーツが有する楽しさや喜びを味わうことができる教材づくりを大切にする。教師は、「何が面白い運動なのか」「運動を通してどんな力が身に付くのか」「どの子どもも学習に参加できるのか」といったことを明らかにしながら教材分析を行い、子どもが意欲をもって学習に取り組むことができるようにする。

そのためには、目の前の子どもたちの実態を的確に把握し、単元で目指す学びのゴールを明確にする必要がある。特に運動を苦手と感じている子どもには、「だんだん分かってきた。」「前よりもできるようになった。」という小さな達成感や喜びを積み重ねていけるように、単元を通して資質・能力を高めていくことができる単元構成も大切である。

運動のもつ特性や魅力を教師が熟慮し、教具やルールの設定、場づくりなどの環境構成を子どもの発達段階や実態に合わせて工夫することで、子どもから「～したい」という思いを引き出せるようにする。主体的な思いをもちながら領域特有の面白さを味わう経験を繰り返す中で、学ぶ楽しさや価値を実感する姿が生ま

※保健領域においては、「運動」を「健康」や「保健学習」と置き換えて考える。

研究の柱②
子どもが自ら課題を
発見し、解決するた
めの手だて

れると考える。

資質・能力をよりよく育成するためには、「目標（めあて）をもつ」「学んだ内容を振り返る活動を行う」など、自ら課題を見付けたり発見したりして、解決する学習の楽しさと、自己の高まりを実感できるようにする学習が大切である。「もっとやってみよう」「できるようになりたい。」といった目標やめあてをもつことは、学習を進める上での大きなエネルギーとなり、自己の学びを振り返ることによって、また新たな目標が生まれていく。そのためには、課題設定や解決への見通しをもつ活動、振り返りの充実が不可欠であり、子どもが自ら課題を発見する手だてと解決に向かうための手だてを講じることが大切である。

学習指導案には、子どもがいつ、どのような課題を発見できるようにするのか、そのためにどのような活動を行うのかを具体的に明記する。一人一人の子どもが見いだす課題は多様であり、最適な解決方法も多様である。そのため、課題を見いだした子どもがどのように解決していくのかという姿を十分に想定し、解決を支えるための手だてを考えるようにする。運動が苦手な子どもに対しては、その子に適した配慮を行うような手だてをとる。

子どもが自分の課題を解決する過程と成果を自覚する学びが連続することで、資質・能力の育成につながっていくと考える。

研究の柱③
子どもが自分に合った
方法で学習できる
学習過程の工夫

子どもが課題を発見し、解決に向けて活動する際には、他者と関わり、解決の道筋を自己決定できるように学習過程を工夫する。多様な他者の存在を認め合い、多様な考えに触れることで、自らの課題解決に向けた活動が加速していく。そのために、ペアやグループで取り組むといった他者との関わりが必然的に生まれるような仕掛けや ICT ツール等を活用して考えを交流するといった場面を取り入れる。

令和4年度の全国体力・運動能力調査の質問紙調査では、児童生徒が体育・保健体育の授業が楽しくなるためには、「自分のペースで行うことができた」という回答が小中学校男女ともに最も多かった。一人一人が場やルールを選択しながら、自分に合った方法やペースで運動に挑戦する個別最適化された学習が求められるといえる。

また、教師や子どもの評価活動も重要な要素となる。教師は単元や本時での評価規準を明確にして授業を構築する。学習指導案の単元構造図には、1時間ごとの目標や評価規準、評価方法を明記し、指導と評価の一体化を図った上で指導を行う。さらに、子ども自身が運動への取り組み方や学習過程を評価できるようにし、「伸びた。」「分かった。」「できそうだ。」という実感をもてるようにする。教師による授業改善のための評価と子どもによる自己評価の両輪によって課題の解決への意欲を高めていけるようにする。